

〈幼稚園〉

主体的・意欲的な幼児の生活を促す園行事の工夫

—— お誕生会を通して ——

糸満市立真壁幼稚園教頭 玉 城 紀代子

目 次

I	研究テーマの設定理由	1
II	研究仮説	1
III	研究の全体構想図	2
IV	研究の内容	3
1	幼児の発達の特徴について	3
2	発達の特徴をふまえた援助の工夫	3
3	行事の年間計画	3
4	自分から取り組めるようにする為の環境の工夫	5
5	保護者との連携	5
V	保育実践	5
1	活動名	5
2	活動設定の理由	5
3	活動の保育目標	6
4	本時の指導計画	6
5	検証保育の様子	7
6	考 察	9
7	実践例	
VI	研究の成果と今後の課題	10
1	研究の成果	10
2	課 題	10

〈幼稚園教育〉

主体的・意欲的な幼児の生活を促す園行事の工夫

—— お誕生会を通して ——

糸満市立真壁幼稚園教頭 玉 城 紀代子

I 研究テーマ設定の理由

幼児期は、生活や遊びの中で具体的な体験を通して、世の中に生きる為の最も基本となることを獲得していく時期である。幼児は、遊びを通して人や物に触れ心を動かすことで自己を表現し、自分を取り巻く社会への感覚を養うのである。また、幼児期は、大人への依存（安心感）を基盤にして自立に向かう時期であり、外の世界への好奇心が生まれ、探索し、知識を蓄える為の基礎が形成される。幼児は、徐々に一人でやろうという意欲と、自分がやりたいと思うことに自分から取り組むようになる。また、目的に向かって考えたり、試行錯誤したり新たな知識を追求したりする。その中で自らの感情のコントロールをし、喜怒哀楽を十分体験しながら、友達と関わって遊ぶようになる。幼児期は遊びの中で、成就感や達成感、葛藤や挫折感を味わいながら自分の課題を乗り越えようとする。その体験が最も重要であり、主体的・意欲的な幼児の育成につながるのである。幼稚園では、教師や友達と共に、人との関わり方を学び合うことになる。

本園の幼児の様子を見ていると、「おはようございます。」と元気よく挨拶をする幼児と、にこにこしているものの、教師からの声かけを待っている幼児がいる。元気よく挨拶をする幼児、の学級での様子や遊びを見ていると、自分の意見をよく主張する幼児が多い。しかし、その中には、特に親しく遊ぶ友達がいないのではないかとと思われる幼児もいる。また、にこにこしている幼児は、学級でもなかなか自分の意見を言わない傾向にある。遊びも、同じような性格の幼児2～3人のグループで一緒にいる姿をよく見かける。2～3のグループでは自己発揮できても、集団の中では自己発揮してないのではと思われる。それは、自分の思いを友達に伝える楽しさや、友達と一緒に遊ぶ楽しさを知らないからではないかと考えられる。

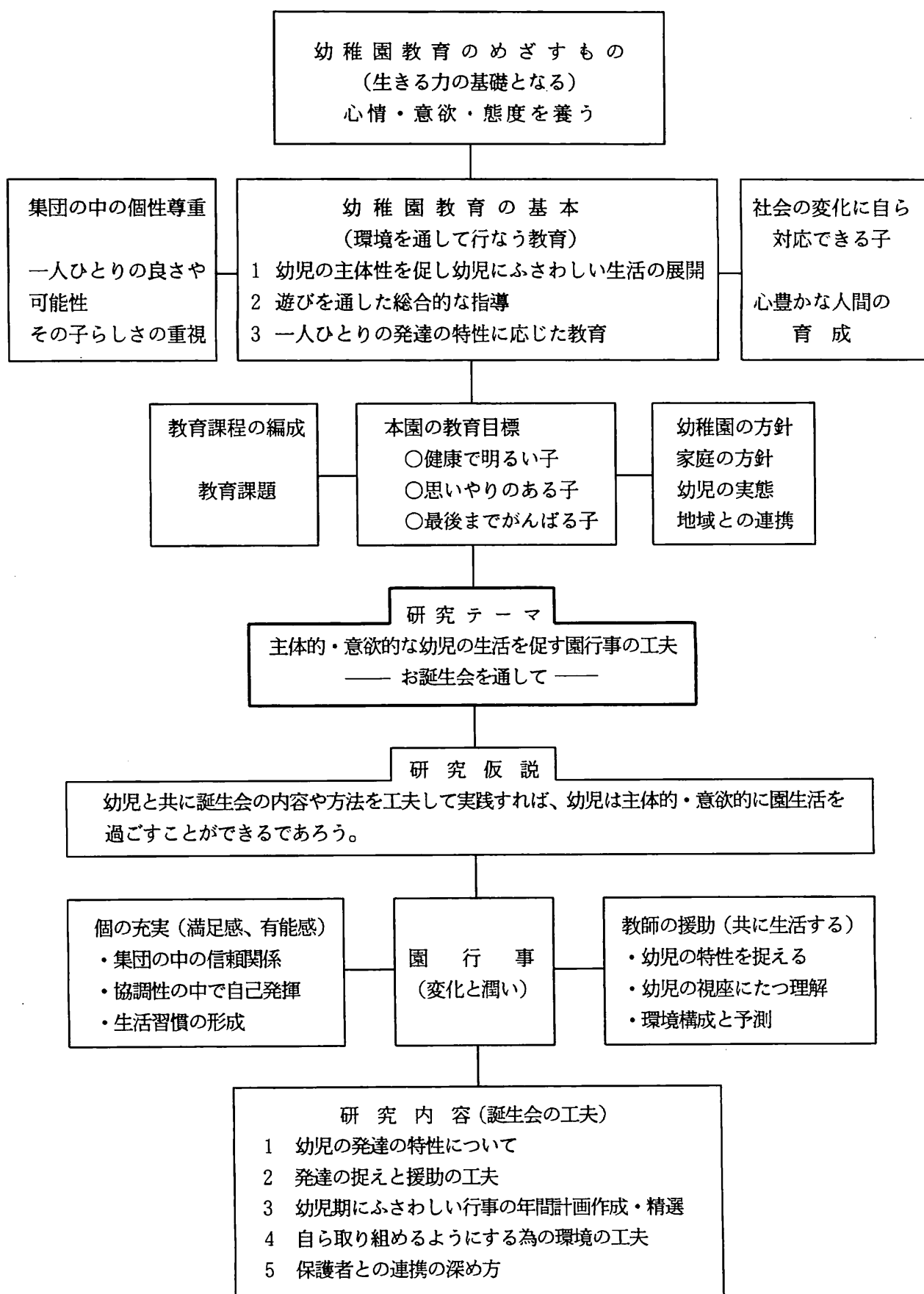
園行事は、幼児の生活に変化や潤いを与えるものであり、園生活に行事を適切に取り入れることによって幼児の生活意欲を高めたり、幼児同士の発達を促す上で意味をもつものである。しかし、今までの保育を振り返って見ると、幼児期の特性や実態を踏まえていたか疑問に思う。行事について考えてみると、自分のペースでなく集団に合わせる為、自己抑制したり、緊張したり、一人でしないといけなことも出てくる。そこで幼児は、同じ条件や決まりのもとで生活をする中で友達関係が深まり仲間意識が育ってくる。そして、共通の話題で活動するので共通の体験をすることができる。幼児が、みんなで同じ場所に集い活動すると、いろいろな人と関わることになり、体験をふくらませることができる。このように共通の目的に向かっていく時、一人ひとりの活動がお互いにわかりやすく、自分の役割がわかり認めあえるようになる。

お誕生会は、幼児の主体性を発揮しやすい園行事である。そこで、お誕生会を通し幼児の発達の実情に合わせて方法を工夫すること。また、個々の幼児の発想を十分受け止めていけば幼児は、主体性を発揮し、意欲的になるだろうと考えて本テーマを設定した。

II 研究仮説

幼児と共に誕生会の内容や方法を工夫して実践すれば、幼児は主体的・意欲的に園生活を過ごすことができるであろう。

Ⅲ 研究の全体構想図



IV 研究の内容

1 幼児の発達特性について

幼児期は生涯の中で脳の発達が最も著しく心身のさまざまな発達の側面が促される時期である。

満6歳では、物事を理解したり判断したりする力が育つ時期である。この時期に自分の誕生日や友達の誕生日を祝うことにより、命の尊さや情緒・人間関係を育てることは大切なことである。

また、幼児期は、信頼できる親や教師などの大人に、自分の存在を受け入れられると安心して、自分の力でいろいろな活動に取り組むことができる特性がある。

⇒ 幼児期の発達の特徴 ⇐

- 同世代の仲間との遊びを楽しむ。
- 喜怒哀楽を十分経験し、自らの感情をコントロールしながら適切な表出を行う。
- 世界を構成する基本となるカテゴリーについての概念を構成する。
(例：物・生き物・人・心など)
- 日常出会う場面で将来の善悪の判断の基礎となる、やってよいこと悪いことの基本的な区別をする。(幼稚園教育のありかたについて 最終報告)

自我形成

(自立と共生)

2 発達特性をふまえた援助の工夫

誕生会の教育的な意義は、個々の幼児や集団の発達面を配慮することで充実感がもてることである。特に、誕生会は一人ひとりの幼児が主役になることのできる行事だけに、集団の中での一人ひとりの存在感が持てるように援助すると共に、基本的な生活習慣の形成や言葉・人間関係・表現等、総合的な発達が得られるものである。

従って、誕生会の為の園生活でなく日頃の活動の延長として誕生会がもてるように援助する必要がある。また、教師は幼児の特性をふまえ、次のような役割を意識し援助を工夫することが大切である。

⇒ 教師の役割 ⇐ (信頼関係)

- 幼児の精神的な安定の拠り所として
- 憧れを形成するモデルとして
- 幼児との共同作業・共鳴するものとして
- 幼児の理解者として
- 幼児の遊びの援助者として

受容的な関わり (不安回復)

- ・ありのままの自分を認めてもらえる。
- ・クラスの一員として認めてもらえる。
- ・慰めてもらう。
- ・寂しさを受け止める。
- ・悲しみを表現できる。

志向的に援助 (自信・希望)

- ・期待する
- ・悔しがる
- ・モデルになる
- ・しかる
- ・励まし見守る

共感的援助 (活動を盛り上げる)

- ・よさを伸ばす。
- ・うまくできない時には教える。
- ・うまくできない子の代弁、状況の説明
- ・幼児と一緒に考えたり、一緒に楽しむ。
- ・おもしろそうなアイデアを出す。

3 行事の年間計画

誕生日は、その日に一人ひとりの幼児を祝福することは意義深いことであり、基本的にはその日に祝ってやるのが大事である。しかし、その日に祝ってやることは幼稚園生活の中では、難しい場合があるので計画的に月の行事として持つことで誕生会への興味・関心を高め、生活の節目とする。その月々の誕生日を迎える子の育ちや集団の育ちを配慮し、主体的な取り組みのできやすい行事とする為に年間指導計画を作成する。

⇒ 具体的なねらい ⇐

- 自分の成長や友達の成長を喜ぶ。
- 両親に対する信頼と感謝の気持ちを持つ。
- 友達とお互いに祝いあうことで喜びを共にする。
- 園全体の交流や全体で集会する楽しさを知る。
- 集会の時の話を聞く態度を身に付ける。
- 友達と話したり、さまざまな表現を楽しむ。
- 生活習慣の自立を図る。

(1) 誕生会の年間指導計画と展開

	1期 (4～5月)	2期 (6～7月)	3期 (9～10月)	4期 (11～12月)	5期 (1～3月)
幼児の姿	・教師に声かけてもらうのを待っている子や、積極的に話しかけてくる子がおり、関わりを持つ事で安定する。	・友達のやっていることに興味を持ち、同じことをやりたいという意欲をもって、友達と遊びを進める姿がみられる。 ・遊びを進めながら、友達とのつながりを楽しんでいる	・学級での約束が理解でき、守ろうとする。 ・遊びの中で仲間意識を持ったり、競争心を持ったりして、友達と遊びを楽しむようになる。また、ルール違反をする子を厳しく諭したりする姿もみられる。	・グループや学級全体に関わって遊びや仕事を進める中で、その子なりの力を発揮する姿がみられる。 ・友達と一緒に積極的に活動に取り組み、協力し合って遊びを進めるようになる。	・これまでの経験から自信を持ち、自分達で話し合いながら、遊びが進められるようになる。 ・園への愛着を感じながら、遠生活を充実させるようになる。
（ねらい・内容）	・誕生会の雰囲気を知り楽しく過ごす。 ・パネルシアターを見る ・フォークダンス・歌 （ゆうぎ室）	・個やグループで得意なものを出して、誕生会を楽しむ ・手話ソング ・手品 ・学級からの出し物 （戸外）	・いろいろな運動遊びを楽しみながら、仲間意識を深める。 ・幼児からの出し物 ・なわとび、フープ大会 （戸外）	・自分たちであるいは教師の援助を受けながら、会を進める楽しさを味わう。 ・ペープサート等 ・幼児からの出し物 ・わらべ歌 ・劇 （ゆうぎ室）	・幼稚園を楽しいという思いがあふれるように、友達と生活を楽しむ。 ・幼児からの出し物 ・フォークダンス ・合奏 ・歌 （ゆうぎ室）
配慮事項	・入園まもないこともあり、教師が出し物をする事で幼児と楽しく過ごすことに重点がおかれた。また、園の仲間であるその月生まれの友達を、みんなで祝うことの喜びが味わえるようにする。	・各クラスで取り組んでいることを見せ合いながら、刺激を与えると同時に交流を深める。 ・お楽しみ会を少しずつ自分達で楽しもうという雰囲気が出てきているので、友達の演じるのを見たり、みんなでゲームを楽しむ。	・全員が参加して、みんなの前でやることを経験する。これから寒くなるが、体を動かす遊びのひとつとしてなわとびに興味をもつ。	・発表会に向けて、何に興味を持ってきたか把握する。 ・みんなの前で発表する喜びや態度が育つようにする。 ・自分たちの会として、進んで計画できるようにする。	・友達の努力している所をみんなで見え、協力して会を進める楽しさが味わえるようにする。

4 自ら取り組めるようにする為の環境の工夫

- ・ 幼児の視点に立ち、幼児一人ひとりの行動の理解と予測に基づき計画的に環境を構成する。
- ・ 幼児が楽しみに待てるようにすると共に、見通しをもった計画が立てられるようにする。
- ・ 日頃の生活の中から幼児が出し物をしたり、雰囲気づくりを一緒にする等、自分達でできることを増やすようにする。また、幼児の思いや考えを取り入れるようにし、自分達の会として意識がもてるようにする。
- ・ 一人ひとりの遊びの充実や友達関係の育ちを見守りながら、学級活動の充実を図ることで集団生活の仕方を身に付けるようにすると共に、幼児から主体的に誕生会の企画・運営ができるように促していく。等の工夫が必要である。

5 保護者との連携

- ・ 幼児は、家庭での経験を基盤に生活を広げていくだけに家庭生活から受ける影響は大きい。集団の中の育ちは、家庭との連携を深めることにより促されるものであり重要である。また、幼児の発達を促す為には、家庭との連携は不可欠である。
- ・ 誕生会を行うにあたっては、家族からのメッセージを書いてもらうことで、幼稚園生活に理解を深める機会とし、幼児がより主体的・意欲的に取り組める行事とする。また、誕生会で幼児が自己存在感や有能感を持たせると共に、他児にとっても友達を深く理解することになるより充実感を味わうことができる。

V 保育実践

1 活動名 12月のお誕生会

2 活動設定の理由

① 幼児観

「僕、もうすぐ6歳だよ。10月生まれだから・・・。」と、誕生日の月が近づくと指折り数えて待っている様子が見られる。また、「〇〇が上手だね。」という、「だって6歳だもん。」と、あっさりと答えられてしまう。幼児にとってお誕生会を向かえることは、重大意味をなし、成長への大きなステップとなっている。家族でも祝ってもらえるということもあり、園でも話題にし、嬉しさを隠しきれずにいる。誕生会は、自分が主役として祝福を受ける嬉しさを体験する機会となる。また更に、友達の誕生日も祝ってあげようとする気持ちが育つこととなり意義深い。

② 教材観

誕生会は、各自主役になる機会であり、「生命の誕生」の根源の日でもある。ほとんどの幼児が誕生日に関心をもっているので、取り組みやすい教材である。

また、毎月計画されている為、その時期の育ちの発表の場としても内容や方法の積み重ねができる。更に、総合的な発達を促すことのできる教材である。また、誕生会行事を目標に、同年齢の中での支え合い・育ち合いが深められ確認できる教材である。

③ 保育観

誕生日に期待する幼児の思いや考えを十分受け止め、みんなで祝福を共有できるようにしたい。また、個・グループ集団等で常に話し合う雰囲気をつくり、いろいろなアイデアが出しあえるような援助を心がけ、自分達の会としての意識がもてるようにする。全員が役割を持ち積極的に参加できるようにする。また、消極的な子に対しては、クラス会等の活動で自信を持たせることで自己発揮できるようにする。

3 活動の保育目標

価値目標

- ・友達と一緒に遊びや仕事を進める楽しさを、味わう体験をする。
- ・友達と積極的に関わりながら、成長の喜びを共感できるようにする。
- ・自分でできる仕事を選んで、進んで取り組めるようにしたい。

4 本時の指導計画

① 活動のねらい

- ・12月生まれの誕生児をみんなで祝う。
- ・自分達で、あるいは教師の援助を受けながら、意欲的に取り組もうとする。

② 活動の内容

- ・相談して決めたプログラムに添って自分達で進める。

③ 保育の仮説

お誕生会の行事を通して、より楽しくできる教材や方法を出し合った計画をすると主体的・意欲的に取り組むことができるであろう。

④ 指導計画案

	幼 児 の 活 動	教 師 の 援 助
8 : 15	登園する。(各クラス) ・出席確認を受ける。 ・出席ノートにシールを貼る。 ・当番活動をする。 (小動物の世話、花の水やり等)	・朝の出会いを大事にし、積極的に迎えることで園生活に期待をもたせる。また、健康状態が把握できるような声かけをする。 ・一日の流れを確認することで進んで、次の活動への意識がもてるようにする。
8 : 50	集まる。(ゆうぎ室) ・誕生会についての確認をする。 ・誕生会の準備をする。 ・出し物の準備をする。 (衣装、小道具)	・誕生会の内容や役割をプログラム順に確認することで、自分達で準備が進められるようにする。 ・誕生児は、自分が祝福を受ける日であることを知らせる事で安心感と期待がもてるようにする。 また、司会も全体の中で確認することで自信をもって取り組めるようにする。
9 : 30	誕生会をする。(ゆうぎ室) ①はじめのことば ②誕生児入場(5人) ③誕生児自己紹介 ・自己紹介・インタビュー ④誕生会の歌 ⑤幼児の出し物 ・ピアノ ・手品 ・メガシルバー ・たこっち ・はる日傘 ⑥誕生児へのプレゼント ・園児 ・担任 ・お家の人からのメッセージ ⑦おわりのことば	・できるだけ自分達で司会や準備が進められるように見守り、一緒に祝福する。 ・会場からも質問をすることで祝福の気持ちを表し、誕生児に関心がもてるようにする。
10 : 30	後片付けをして各部屋に戻る。	事前指導 ・より楽しくできる材料や方法を提供したり、幼児からのアイデアを生かしことで意欲を高めるようにする。 ・出し物や役割については、個々の意見や思いが十分だせるようにする。 ・特に、全体会でのマナーや態度についても日頃の生活の中で身につけるようにし、お互いで高め合う集団づくりをする。 ・誕生日の幼児と祝福の気持ちを共有しながら、友達や両親への感謝の気持ちがもてるようにする ・一人ひとりのよさを受け止めて自信つなげる。
視 点	・役割を受け合うことで主体的・意欲的に参加することができたか。 ・誕生会を楽しむことができたか。	

5 検証保育の様子

(1) 12月生まれの誕生会

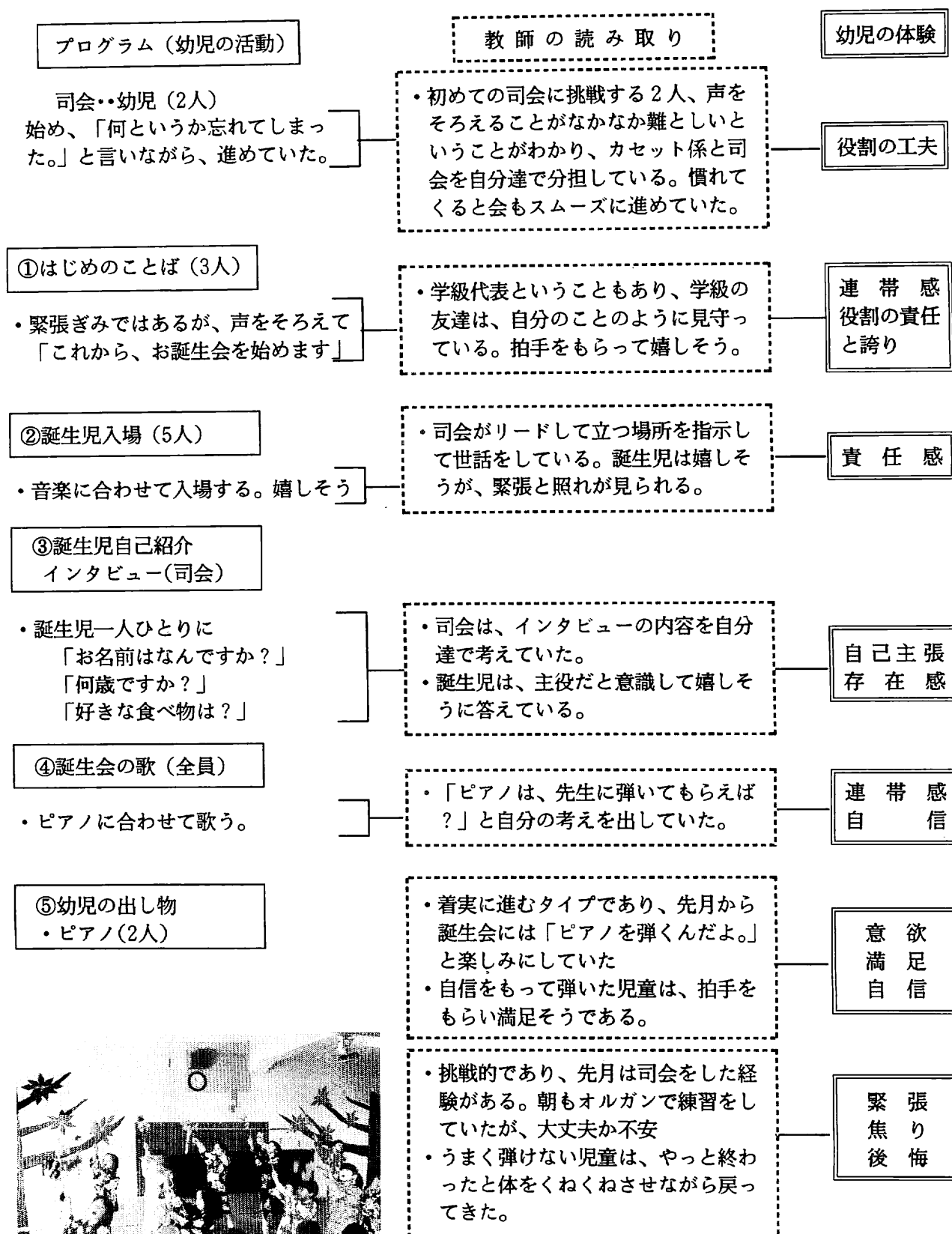
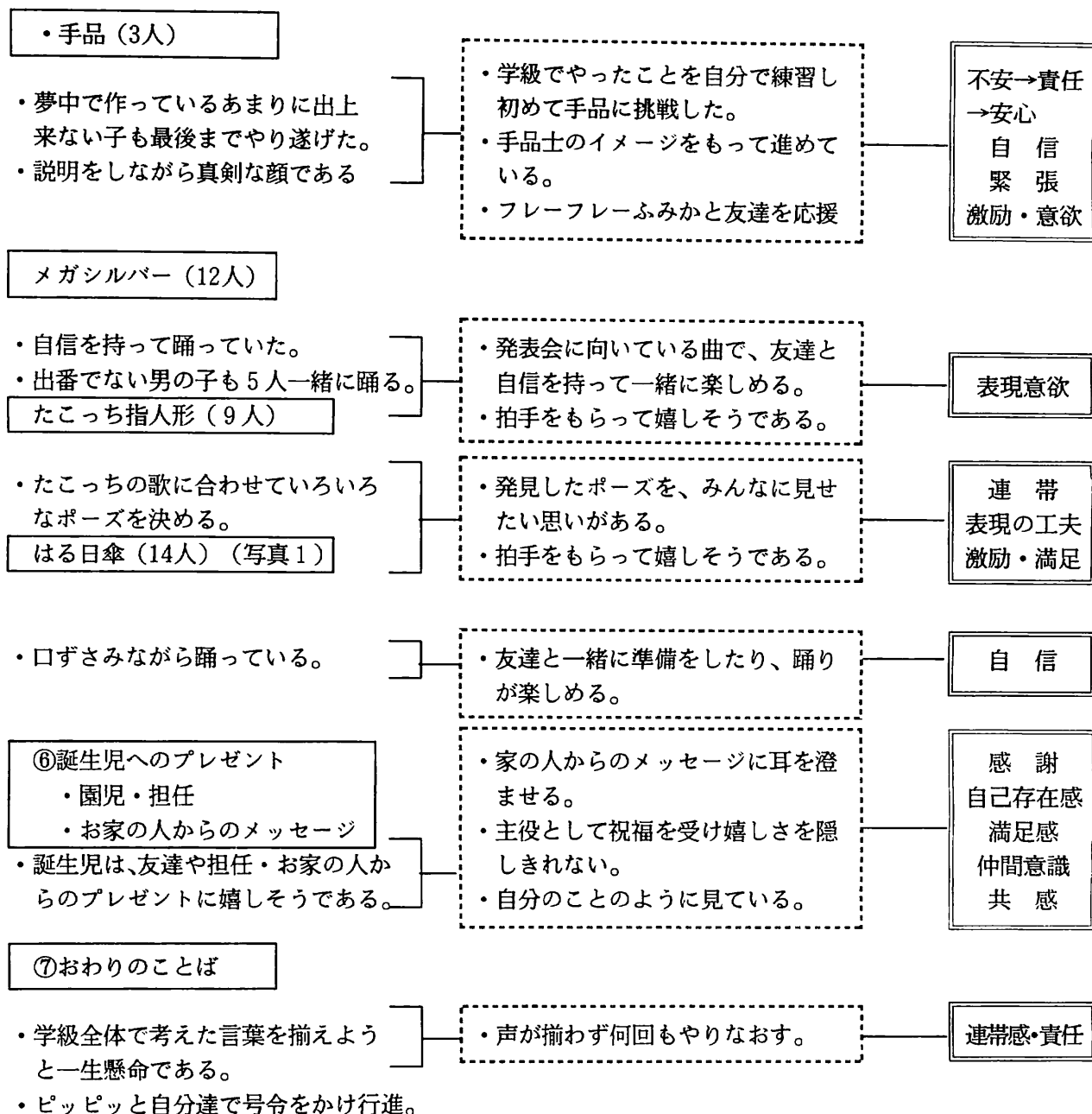


写真1 出し物(はる日傘)



(2) 反省と考察

- ・自分たちで相談してプログラムを決めると内容が分かり、自分の好きなプログラムを選び進んで参加しようとする様子が見られた。また、役割を持つと自分たちで道具や用具・衣装等の準備をしたり、後片付けをする等、意欲的に取り組む様子が見られた。
- ・回を重ねるごとに司会の仕方が分かり、インタビューの内容を自分の考えで書いたり、カセットの操作等もしながら進める等、役割を任されることで、自己発揮することがわかった。また、みんなと一緒にの出番から、だんだんグループや個人の出し物を見てもらいたいという表現意欲を感じた。
- ・家の人からのメッセージには真剣に聞き入り、降園時も「もう一回読んで」と自分のことのように慶ぶ姿から保護者との連携の重要性が分かった。
- ・プログラムの中で教師の出番として、お祝いのメッセージ等を入れることで、誕生会の意義がより実感できるものだと思い教師の意図の大事さを感じた。
- ・幼児は、いろいろな体験をしながら取り組んでいることを知り、一人一人の幼児の意欲的な様子を充分受け止め合うことが意欲的な行動につながると思った。

6 実践例 2

① T男の誕生会・運動会に向かう姿より ― 発達の特徴を捉える ―

T男は、3人兄弟の末っ子である。集団生活の経験はあるが、同じ保育所からの友達がいない為、幼稚園は、新しい友達関係の場であった。人なつこく自分から友達や教師に話かけてくる。いろいろな遊びや物に興味は示すが、その場限りで遊びが転々と移る。遊んだ後の片付けができず、遊んだその場に用具や遊具を置いていく。後片付けを促すと、「あっそうだ。」と素直に片付けをする。明るく、活動的ではあるが、自分から遊び込むことはない。

	一 学 期	二 学 期（前半）	二 学 期（後半）
日 頃 の 活 動	友達の遊びに関心を示し、「見せて」「どんな？」と興味を示すが、自分では作らず友達の作った物で遊び満足する。	友達が運動遊びに挑戦しているのを見る日が続いていた。教師の誘いに「いいよ。」と答える。運動会に向けて遊具が整理されたことで、「オレもやってみようかな」と、挑戦し始めた。	運動遊びに自信がついたのかホッピングにも挑戦するようになった。「オレも、初めてできなかったんだよ。お前もがんばれ。」と、友達を励ますようになった。

	↘	↗	↘	↗	↘
誕 生 会	みんなと歌ったり踊ったりした。また、教師の出し物に興味深そうに見る。	友達の出し物に関心をもち見ていて「どんなしてやったのか。」と聞き自分もまねる。	友達と2人一緒に手品をみせる。	「次の誕生会は、タコッチをやりたい。」と、意欲的にポーズを考えた。また、練習の時もリードして準備や片付けをした	

② 考 察

T男が、友達の様子を見ていることを、消極的な態度だと思い「一緒にやろう。」とさそったが、T男にとっては、ため込みの時期であったことを知り、教師の運動会に向けたあせりだったと反省した。また、行事を持つことで遊具を整理することは、育ちを支える環境の工夫になっているのではないかと思った。

幼児の遊びが充実してくると、自分から進んで準備をしたり、使った後の道具の片付けも進んでできるようになることがわかった。また、教師の幼児の活動を捉える視点が生活習慣の面に向けられていることがわかり反省した。

自分が満足すると、「ほら見て、数えてよ。」とか、友達や教師に認めてもらうことで、遊ぶ楽しさをより実感する様子がみられた。また、「こうするとできるよ。一緒にやろう。」と教え合ったり、友達と一緒に生活することの楽しさを知り、意欲的に遊ぶ様子が見られる。また、同年代だけに気持ちが伝わるのか「一緒に頑張ろう。」とさそったり、取り組み方の工夫を具体的に示しながら感動を伝える様子が見られた。

運動会や誕生会という行事は、日頃の生活の様子を家族や友達等よりたくさんの人に認めてもらう機会となり、幼児の活動が意欲的になる様子が見られた。また、行事は、幼児にとって日頃の活動の課題的な意味をもつことにもなり、目標があることでより意欲的になる様子が見られた。

VI 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- ・園行事は、幼児にとって日頃の生活の発表の場となり多くの人に認めてもらうことで満足感や充実感を得る機会となる。また、行事は、目標や課題的な意味をなし、行事に向かう幼児の姿に活気が見られ意欲的な生活につながるということが分かった。
意欲的な活動を生み出す場となることがわり、一人ひとりの日頃の生活の充実が大事だということがわかった。
- ・誕生会では、いろいろな役割（誕生日の祝いを受ける幼児、祝う幼児、司会等）があり、役割を交互に分担することができる魅力的な行事であり、幼児の主体性や意欲的な活動を促していることがわかった。また、個々の幼児の育ちや集団の育ちを配慮しながら、幼児の主体性が十分生かせる部分をつくること。内容や方法を一緒に考えることで、自分達の会としての意識が高まり意欲的に取り組める活動になることがわかった。
- ・毎月誕生会持つことで誕生会の流れがわかり、役割を意識しながら自分なりの目標をたてて生活をする様子や誕生会を終えた後の幼児の生活に活気が見られることから、行事の満足感は日ごろの生活の充実につながるということが分かった。また、満足感を十分受け止め合うことが意欲的な幼児の生活を促すことになる。
- ・誕生会のプログラムに教師ならではの祝福の仕方を工夫することが、共に生活する楽しさであり、教師の意図の大事さを知った。

2 課 題

- ・幼児理解を深める工夫
- ・幼児の育ちと学級集団の両面の育ち方
- ・幼児の発達を促す為の家庭との連携を深める工夫

〈主な参考文献〉

文部省	『幼稚園教育指導書増補版』	フレーベル	1989年
"	『幼稚園教育指導資料第1集』	"	1991年
"	『"4集』	"	1995年
柴崎 正行	『幼児の発達理解と援助』	チャイルド	1992年
西久保 礼造	『園行事運営辞典』	ぎょうせい	1994年
時代の変化に対応した今後の幼稚園教育の在り方に関する時代の変化に対応した 今後の調査研究協力者会議	『幼稚園教育のありかたについて－最終報告－』		1997年